

厳しい環境で
一生懸命やりゆう子供たちこそ、
“室戸びと”だと思います。



坂本柔剛が室戸に少年サッカークラブを立ち上げたのは、4年前。
10歳の時に吾川郡いの町に引越し、中・高ではサッカー部に所属。
高校卒業後に室戸に戻った。

NPO法人むろとスポーツクラブに声をかけられ、最初は一度きりの
教室を開いたところ、15人ほどの人数が集まった。今では独自の
クラブを立ち上げ、小・中学校合わせて43人。子供たちは練習に
打ちこみ、力をつけ、今では指定強化選手が5人もいる。

室戸の子供たちは、山や海に囲まれた自然の中でたくましく育ち、意気
軒昂で上昇志向な子供が多い。だから少しの指導でぐんぐん上達する。
「チームから巣立った選手が、サッカー以外でも何処かで活躍をして
名前を聞くことができたらうれしい」。そんな思いで、週6日1時間強、
雨の日以外は練習日だ。ボランティアで活動をするのも、「頑張っ
ている選手がいるから僕は環境をつくっているだけ」。「むしろ指導
者も少なく、練習試合もままならない環境で頑張っている選手が
偉い」と話す。

将来、室戸の中学校にサッカー部を作る働きかけも始めている。
「サッカーの中には、すべてが詰まっている」という言葉の通り、サッカー
を続けることで学ぶことは多いはず。

このグラウンドで育った若き“室戸びと”が、広い世界で羽ばたく
日も近そうだ。

室戸アンビションFC
坂本柔剛

室戸びと、
進む。